

# 読者のひろば

## 志位委員長、岡田民主党首・吉田社民党首・小沢生活代表と会談



釜石市野田市長と懇談

### 党県議団で釜石市・大槌町の復興状況を調査

#### 釜石市

9月25日、3人になった党県議団で被災地の復興状況調査に行ってきました。午前10時に釜石市役所を訪問し、野田武則釜石市長、山崎秀樹・田中透両副市長らと懇談しました。

野田市長から、被災者住宅再建支援事業補助金及び、生活再建住宅支援事業補助金制度の拡充について、

仮設施設有効活用等支援事業にかかる助成金の制度延長について、根浜海岸砂浜養浜について、外国人技能実習生の受け入れ拡充についてなど9項目

の要望を受けました。とくに根浜海岸の養浜事業では、調査事業まで行われたが、事業実施まで至っていないこと。自然再生では360年もかかること。釜石市唯一の海水浴場であり、橋野鉾山の世界遺産登録やラクビーワールドカップ会場に隣接していることからぜひ進めたいとの要望をいただきました。

仮設店舗については、215区画あり、5年以内には区画整理事業などの遅れから本設展開できない事業者も少なくないことから、制度の延長を求めています。市独自に解体撤去・解体する場合、2億円弱の経費がかかることでした。基幹産業である水産加工業で、労働力不足が定常化している中で、特区制度の活用で外国人実習生の受け入れが50以下の事業所で3人から6人に拡充されたが、認可されたのはわずか釜石市内の1社だけで、50人以上の事業は対象にならないなど基準が厳しすぎて切実な状況だと述べられました。野田市長は「難民受け入れも検討したいほど

だ」と話されました。ラクビーワールドカップ2019釜石開催に向けた支援については、被災地の代表として開催が決まったことから運動を盛り上げた。財源確保が重要で33億円、うちスタジアム建設で20億円強程度かかる。一般会計ベースでは10億円程度だがまだ見通しが立っていないとのことなどが話されました。

上中島災害公営住宅で被災者と懇談

11時から上中島災害公営住宅を訪ね、集会所で被災者の方々と懇談しました。

この住宅は町中にあり、人気の高い住宅でしたが、入居してみると不便で不自然な問題があったと述べられました。「お勝手の蛍光灯まで届かず、独自に蛍光灯を設置した」「テラスが広いが各戸ごとの仕切りがなく、外部の人が入ってきて不安だ」「そのために日中からカーテンをしているので部屋が暗い」「入居してみると部屋の蛍光灯も付いておらず、カーテンから家具までお金がかかって大変だった」「押入れが狭く布団を入れるのが大変」「隣の音が聞こえる」「ドアが重い」「市は

検証すると言っているが、半年たっても何の対応もない」など沢山の切実な声と要望が出されました。

その後、実際に公営住宅の部屋を見せてもらいました。お勝手の蛍光灯までお年寄りには確かに届かず、テラスは外部から入ってこれる異常なものでした。

#### 大槌町

大槌病院の坂下院長、岩田理事と懇談

午後1時半から県立大槌病院の仮設診療所を訪ね坂下伸夫院長、岩田千尋理事らと懇談しました。

坂下院長は、来年度から新病院への移行が実現しますが、50床の入院病床が整備されることから当直医の確保など医師確保が最大の課題と話されました。現在は常勤医5人(内科医4人、外科医1人)だが任期付医師が2人で平均年齢が58歳とのこと。看護師は今年度で採用され他病院で業務発令されています。新病院への移行の課題では、路線バス・町営バスの確保、病院の周りに店舗などが何もないことからコンビニがあればとの要望も出されました。今後の課題として

は、在宅医療にも取り組むたいと話されました。

大槌町大水副町長と懇談

午後2時半過ぎに大槌町を訪問し、大水副町長と懇談しました。

大水副町長は、防災集団移転事業や土地画整理事業などでほぼ用地確保のめどが立ち、復興事業は順調に進んでいるが、工事はこれからが多く被災者には分りにくい状況とギャップもある。町方地区の区画整理事業では、前の住民の多くが戻って再建する希望が多く、災害公営住宅への希望も多い。グループ入居もあって住民のつながりがあるが、単身世帯が半分を占めるなど高齢化の課題への対応があると話されました。新町長が「事業の見直しで被災者関連の事業を加速させる」と公約していますが、何をどう見直すのか大変で複雑な感じを受けました。副町長が1人になっています。この調査を9月県議会で論戦と被災者の要求実現に結び付けたいと思っています。